



S.Setoguchi

THE SHUKA SHO

第29回 秋華賞 (GI)

1着 2着 3着 4着 5着
 本賞 110,000,000円 44,000,000円 28,000,000円 17,000,000円 11,000,000円
 付加賞 3,234,000円 924,000円 462,000円



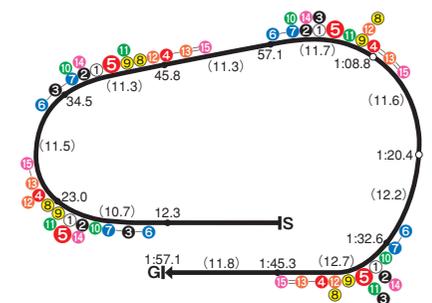
レース映像は
 コチラをご覧ください
 いただけます。

牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 馬齢重量

2024.10.13 京都 晴・良 芝2000m (国産) (種定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑤	チェルヴィニア	牝3	55	C.ルメール	1:57.1	8-8-8-7	34.2	490(+8)	2.3①	木村哲也(美浦)	115
2	⑩	ボンドガール	牝3	55	武豊	1% 12-12-13-13	34.1	448(±0)	14.6⑤	手塚貴久(美浦)	111	
3	④	ステレンボッシュ	牝3	55	戸崎圭太	1/2 10-10-11-10	34.3	468(+10)	3.9②	国枝栄(美浦)	110	
4	⑫	ラヴァンダ	牝3	55	岩田望来	3/4 3-4-4-4	34.9	478(+2)	123.2⑬	中村直也(栗東)	109	
5	⑬	クリスマスパレード	牝3	55	石川裕紀人	ハナ 2-2-2-2	35.8	464(+4)	19.7⑧	加藤士津八(美浦)	109	
6	②	ミアネーロ	牝3	55	津村明秀	クビ 10-10-11-10	34.5	478(-2)	13.5④	林徹(美浦)	108	
7	④	タガノエルピーダ	牝3	55	団野大成	クビ 3-3-3-3	35.2	458(+6)	18.1⑦	斉藤崇史(栗東)	108	
8	⑦	チルカーノ	牝3	55	鮫島克駿	1% 13-12-13-14	34.5	460(+4)	55.5⑫	高野友和(栗東)	105	
9	⑧	コガネノソラ	牝3	55	坂井瑠星	クビ 5-5-4-4	35.2	444(-10)	27.4⑩	菊沢隆徳(美浦)	105	
10	①	ホーエリート	牝3	55	北村友一	ハナ 8-9-9-10	34.9	468(+2)	125.7⑭	田島俊明(美浦)	105	
11	⑥	ラビットアイ	牝3	55	横山典弘	2 15-15-15-15	34.4	486(-2)	145.2⑮	鈴木孝志(栗東)	101	
12	⑨	アドマイヤベル	牝3	55	横山武史	1% 6-6-4-6	35.7	496(+12)	51.5⑪	加藤征弘(美浦)	99	
13	⑬	セクトハイースト	牝3	55	藤岡佑介	ハナ 1-1-1-1	38.1	458(+6)	33.0⑯	四位洋文(栗東)	99	
14	①	ランスオブクイーン	牝3	55	松山弘平	1/2 6-6-7-7	35.7	446(+8)	16.7⑥	奥村豊(栗東)	98	
15	③	クイーンズウォーク	牝3	55	川田将雅	6 14-14-9-7	36.5	524(+2)	6.8③	中内たか正(栗東)	88	

単勝⑤230円(1%)* 複勝⑤120円(1%)* ⑩290円(6%)* ⑭140円(2%)* 枠連③-⑥880円(4%)*
 馬連⑤-⑩2,200円(6%)* ワイド⑤-⑩750円(6%)* ⑤-⑩230円(1%)* ⑩-⑬900円(10%)*
 馬単⑤-⑩2,880円(8%)* 3連複⑤-⑩-⑬2,230円(4%)* 3連単⑤-⑩-⑬11,970円(23%)*
 5重勝⑤⑦⑬⑥⑤1,086,510円(384票) 対象競走: 京都9R/東京10R/京都10R/東京11R/京都11R



通過タイム: 600m 800m 1000m 上り: 800m 600m
 34.5 - 45.8 - 57.1 48.3 - 36.7

アラカルト

- ・C.ルメール騎手はアーモンドアイで制した18年に続く秋華賞3勝目。なお、本競走3勝は武豊騎手、岩田康誠騎手にならぶ最多勝タイ記録。JRA重賞は本年8勝目、通算155勝目
- ・木村哲也調教師は秋華賞初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算30勝目
- ・ハービンジャー産駒はJRA重賞通算42勝目
- ・コガネノソラの丹内祐次騎手は前日の新潟競馬第3日での負傷のため坂井瑠星騎手に変更

チェルヴィニア *Cervinia*

牝 鹿毛 2021.2.3生
 北海道安平町 ノーザンファーム生産
 馬主・(有)サンデーレーシング 美浦・木村哲也厩舎
 馬名意味・マッターホルン山麓の集落の名より

ハッピートレイルズIRE系 F4-D

ハービンジャーGB Harbinger 鹿毛 2006	Dansili 黒鹿毛 1996	Danehill Hasili
	Penang Pearl 鹿毛 1996	Bering Guapa
チェッキーノ 栗毛 2013	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	ハッピーパス 鹿毛 1998	サンデーサイレンスUSA ハッピートレイルズIRE

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×S5

INTERVIEW

山根健太郎 厩舎長(ノーザンファーム早来)

この後も楽しみしかありません

中間の管理を行っていたノーザンファーム天栄のスタッフも、非常に状態がいいと言っていました。それはパドックを周回する姿にも現れており、いい夏を過ごせたと思えるような馬体と歩様をしていました。他の馬からマークされるレースとなりましたが、それでも折り合いがついていたように、精神的にもタフな馬だと思いました。この後も楽しみしかありません。

K.Ishiyama



栗東に滞在して調整を積んだ桜花賞では思いがけない大敗13着を喫した本馬。その経験も踏まえて陣営は今回美浦からの直前輸送を選択し、見事に最高の結果を出した。右回り、直線の短い内回りコースもまったく問題とせず、女王対決を制した牝馬二冠馬の次戦はジャパンCに決定。古馬や牡馬勢はもろろん、例年以上にハイレベルな面々が参戦の名乗りをあげている世界の強豪との激突が楽しみだ。

父ハービンジャーGB

英9戦6勝(キングジョージVI世&クイーンエリザベスSG₁、ハードウィックSG₂、ゴードンSG₃、オーモンドSG₃)、11年から日本で供用
 [(代表産駒)ノームコア(香港CG₁、ヴィクトリアマイルG₁)、ディアドラ(秋華賞G₁、ナツソウS・英G₁)、プラストワンピース(有馬記念G₁)、チェルヴィニア(本馬)、モスカッチャン(エリザベス女王杯G₁)、ベルシアンナイト(マイルチャンピオンシップG₁)、ナミュール(マイルチャンピオンシップG₁)、ニシノデイジー(中山大障害J・G₁、東京スポーツ杯2歳SG₆、札幌2歳SG₆)、ドレッドノート(京都市大賞典G₆)、ローシャムパーク(オールカマーG₆)、ハービンマオ(関東オークスJ₆II)、他に重賞勝ち馬多数

母チェッキーノ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央7戦3勝(フローラSG₆、アネモネS₆、オークスG₁2着)

ノッキングポイント(20 牡父モーリス)中央11戦3勝(新潟記念G₆、毎日杯G₆ | 2着、七夕賞G₆3着)

チェルヴィニア 本馬(21 牝父ハービンジャーGB)中央6戦4勝(オークスG₁、秋華賞G₁、アルテミスSG₆) 獲得総賞金328,424,000円

アルレッキーノ(22 牡父ブリックスアンドモルタルUSA)中央3戦1勝 ㊟(23 牡父エピファネイア)

(24 牡父エプフォーリア)

祖母ハッピーパス

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央5勝(京都牝馬SG₆、札幌日刊スポーツ杯⁰、阪神牝馬SG₆2着、フィリーズレビューG₆2着、中山牝馬SG₆2着、クイーンCG₆2着、京都牝馬SG₆3着、桜花賞G₁4着)、18年用途変更ラヴェルソナタ(08 馴父ファルブラヴIRE)中央4勝(潮騒特別、本橋湖特別)パストフォリア(09 牝父シンポリクリスエスUSA)中央4勝(ユートピアS、| 山中湖特別)、サブライムアンセム ㊟(フィリーズレビューG₆)の母

コーディーノ(10 牡父キングカメハメハ)中央3勝(東京スポーツ杯2歳SG₆、| 札幌2歳SG₆、朝日杯フューチュリティS₆12着、皐月賞G₁3着)

トレカールティスタ(11 馴父キングカメハメハ)中央4勝(奥尻特別、障害0勝)

チェッキーノ(13 前出)

ヴァンランディ(16 牡父キングカメハメハ)中央4勝(元町S、ティエムオペ | ラオーC、夏木立賞、ディセンバーS・L2着)

ジネストラ(18 牝父ロードカナロア)中央4勝(幕張S、札幌道新スポーツ賞、アネモネS・L2着)

鋭い末脚を披露し牝馬二冠達成!

東西のトライアルの覇者、古馬混合のクイーンSを制したコガネソラをはじめ、多彩な顔触れが一堂に会した秋華賞だが、最大の焦点は春の女王の競演。桜花賞馬ステレンボッシュとオークスマチエルヴィニア、ともに直行のローテーションで臨んできた2頭が「双璧」と目された。ラバーマツチを制したのは檜の女王。1番人気の支持を集めたチェルヴィニアが身上的鋭い決め手を冴え渡らせ、名実ともに3歳牝馬の頂点に君臨した。

大逃げを打ったローズSで小差の3着に粘り込んだセキトバイーストが、大外枠を引いたこの日も先手を奪取。自分のスタイルを貫いて後続をどんどん引き離す。離れた2番手に紫苑Sの勝ち馬クリスマスパレードが続ぎ、チェルヴィニアのC・ルメル騎手は3番手以下に形成された馬群の中団を追走。ダッシュが鈍かったステレンボッシュはその後ろにつけ、一角崩しの期待をかけられたローズSの覇者クインスウオークはスタート直後に躓いて後手に回ったものの、向正面半ばではチェルヴィニアの直後まで進出した。2番手に8馬身ほどのリードをつけて坂を駆け下りたセキトバイーストは直線に向くと急激に失速。一斉に襲い掛かった後続のなかでも、とりわけ鋭い末脚を繰り出したのがチェルヴィニアだった。外には持ち出さず、馬群の間隙を狙ったルメル騎手が本格的に追い出すとたちまち先頭へ。後方で直線勝負にかけていたポンドガール、内めのスペースを突いて追い込んだステレンボッシュの反撃を寄せ付けず、完勝のゴールに飛び込んだ。